



株主メモ

事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
剰余金の配当基準日	9月30日 (中間配当を実施するときは3月31日)
定時株主総会	毎年12月
単元株式数	10株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲1丁目2番1号
事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告方法	電子公告 (http://www.cmic.co.jp)

ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

<郵便物送付先・お問い合わせ先>

	平成20年12月30日まで	平成21年1月5日より
	〒135-8722	〒168-8507
郵便物送付先	東京都江東区佐賀1-17-7 みずほ信託銀行 証券代行部	東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
お問い合わせ先 (未払配当金の受領など)	フリーダイヤル 0120-288-324 (変更ありません)	

(ご注意)

株主名簿管理人の事務センター移転に伴い、上記のとおり郵便物送付先が変更となります。なお、住所変更等の事務につきましては従来どおりお取引の証券会社にて承ります。

■単元未満株式の買増・買取

単元未満株式(10株未満の株式)をご所有の株主さまは、その株式と併せて1単元(10株)となる数の株式の買増請求、単元未満株式の買取請求(当社に対する売却)が可能です。単元未満株式の買増・買取請求のお手続きをご希望の株主さまは、上記電話問い合わせ先までご連絡ください。なお、株券等保管振替制度をご利用の場合は、お取引証券会社等へお申し出ください。

■配当金受領方法のお知らせ

当社配当金の受領方法は次のいずれかをご利用いただけます。

- (1) 配当金領収証による受領
- (2) 銀行口座振込による受領

※配当金領収証でお受取りの株主さまには、より安全・確実な銀行口座振込による受領方法のご利用をおすすめいたします。ご希望の株主さまは、同封の「配当金振込指定書」に必要事項をご記入のうえご返送ください。

シミック株式会社

〒141-0031 東京都品川区西五反田 7-10-4 金剛ビル
Tel 03-5745-7070(代) Fax 03-5745-7077
http://www.cmic.co.jp/

株主の皆さまの声をお聞かせください

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、下記いずれかの方法にてアンケートへのご協力をお願いいたします。

① 添付のアンケートハガキを郵送 (切手不要)

② インターネットからアクセス

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。

<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 2309

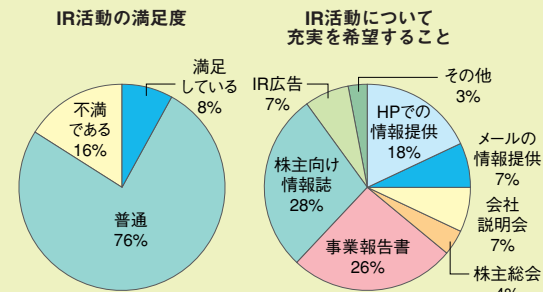
●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com

株主アンケートのご報告

2008年9月期中間シミックレポートにてご案内いたしましたアンケート調査において、多くの株主の皆さまより貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございました。今後も株主の皆さまのご期待に沿えるよう企業努力を続けてまいります。



今日、そして明日へ

シミックは医薬品産業を通じて
EBMの確立に貢献し続けます

特集 トップインタビュー

2008年9月期の業績の総括と各事業の今後の戦略

contents

- 01 シミックグループの目指すもの
- 02 株主の皆さまへ
- 03 トップインタビュー
- 07 シミックグループの事業領域
- 10 コラム
- 11 財務諸表(連結・単体)
- 14 会社概要・株式の概況

シミック株式会社 [シミックレポート]
CMIC Report
08

より多くの人々の健康維持・向上に貢献できる企業グループを目指して

わたしたちは、1992年に日本で初めて医薬品開発支援 (CRO) 事業を立ち上げ、その後2000年には医薬品営業支援 (CSO) 事業、2005年からは医薬品製造支援 (CMO) 事業を開始し、製薬企業の付加価値向上に貢献する独自のビジネスモデル「Pharmaceutical Value Creator (ファーマシューティカル・バリュー・クリエイター)」を展開しています。

また今後は、さらに広く健康を支える新たなビジネスを創出し、顧客層を製薬企業からヘルスケア全般に拡大することで社会への貢献度を高めていく新しいビジネスモデルの確立を目指し、安定した成長を遂げていきます。



第1ステージ：
日本における医薬品開発受託機関 (CRO) のパイオニア

第2ステージ：
医薬品開発受託機関 (CRO) として培った長年の経験・ノウハウを活用し、製薬企業のバリューチェーンを支援するビジネス (PVC) を中心に事業展開

第3ステージ：
病気の予防と治療および人々の健やかな生活の維持向上への貢献を目指して新規事業 (HVC: Healthcare Value Creator) を展開

To Our Shareholders

株主の皆さまへ

中長期的な持続的成長の実現のため、 新体制でスピード経営、効率化を目指します

株主の皆さまには、日頃よりひとかたならぬご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当期は、サイトサポート・インスティテュート株式会社を2008年4月に子会社化、また米医薬品製造受託会社 CMIC-VPS Corporationを2007年12月に子会社化するなど、シミックグループにとって新たな挑戦の一年でした。

2008年9月期 (連結) 売上高、営業利益に関しては、売上高は25,777百万円 (前期比19.2%増)、営業利益は2,275百万円 (同5.3%増) と増収増益となりました。当期純利益については税金費用の増加により実効税率が上昇したため、829百万円 (同30.7%減) となりました。

売上高においては、サイトサポート・インスティテュートの半年分の業績が新規計上されたことなどにより、前期より19.2%増加し過去最高を記録しました。しかしながら、中間決算発表時の連結業績予想との比較では、売上、利益共に予想を下回る結果となりました。

このような結果を真摯に受けとめ、よりスピード経営を目指した、収益性と生産性を高めるための組織体制へと整備し、次期の運営を開始しております。全社一丸となり、成長路線の加速に向けて全力で邁進してまいりますので、引き続きご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

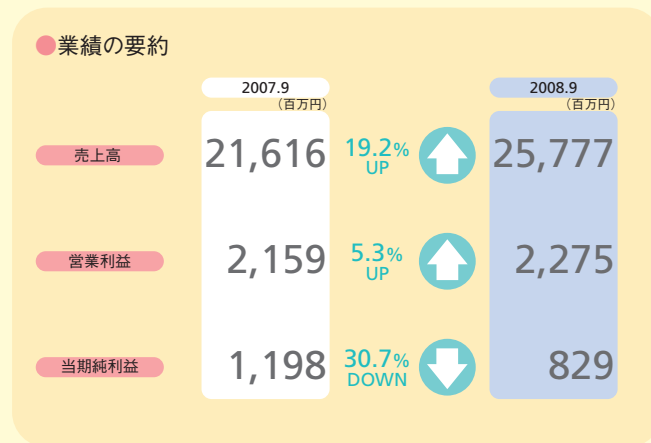


代表取締役会長兼社長/CEO

中村 和男



シミックグループ、 新たな成長ステージに向けて



2008年9月期における 業績の総括を教えてください。

2008年9月期のシミックグループの売上高は、主にCRO事業の受託型モニタリング業務や前臨床業務が堅調に推移したこと、また2008年4月に子会社化したサイトサポート・インSTITUTE（以下SSI）の業績が加わったことにより前期比で増加しました。営業利益、経常利益は、モニタリング業務の採用活動強化による人員確保を積極的に進めたこと、子会社における売上高が減少したことにより、原価率が上昇しましたが、増収の効果により前期比で増益と

なりました。当期純利益については、前期に発生した子会社吸収合併による税金費用減少の影響がなくなったことなどにより、前期比で減少しました。

受注の状況につきましては、受注高が35,177百万円（前期比68.3%増）、受注残高が25,483百万円（同58.4%増）と大幅に増加しました。2009年9月期は、これらの獲得案件を着実に遂行するとともに新規案件の獲得に努め、業績の向上を図ってまいります。

コア事業であるCROの今後の施策、 事業戦略について教えてください。

製薬企業の経営効率化や新薬の研究開発が活発化していることから、当事業については今後も堅調な成長を見込んでいます。

CRO事業の主力となるモニタリング業務では、国内最大規模のモニター数を擁しており、製薬企業からの多様な要望に対応できるサービス体制を整えておりますが、今後さらに一部受託から全面受託への対応強化などを図りながら競争優位性の確保に取り組めます。

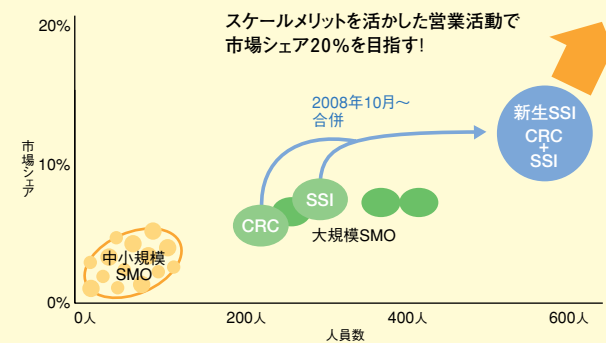
また、2008年4月に子会社となったSMO（治験施設支援機関）事業を行うSSIが、2008年10月、同業務を担うシミックCRC株式会社と合併し、新生SSIが誕生しました。全国の拠点数、CRC数、SMA数、売上高において業界最大のSMOとなり、そのスケールメリットを活かして市場競争力のさらなる強化を目指します。また、臨床試験の一層の効率化・生産性の向上を図るため、グループ内での連携を強

化し、モニタリング業務の生産性の向上を図ります。

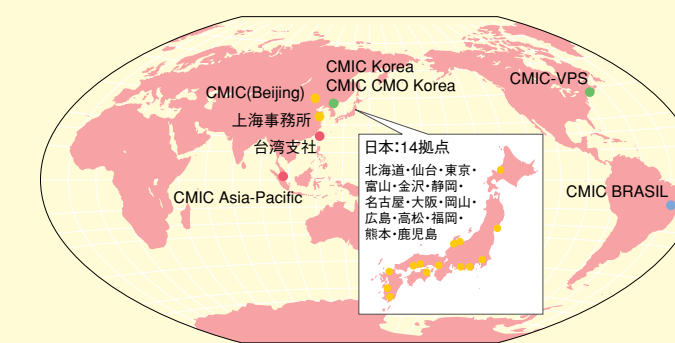
シミックグループは、コンサルティング部門を中心に、日本に拠点を有さない海外製薬企業および医療機器メーカーのフィジビリティスタディから開発、承認申請、営業まで包括的なコンサルティング案件に一層取り組むことで、市場競争力の強化を図ります。

また、今後もグローバル展開をより一層推進していく予定です。国内新薬開発の現況として、治験や承認審査などに時間がかかることによって新薬の発売が海外より遅れるドラッグ・ラグやコスト増大などの問題が指摘されています。そこで日本の臨床データを補完するものとして、当局もアジアでの共同治験を促進しています。シミックグループでは、これらのニーズに対応できるよう韓国、台湾、中国、シンガポールなどのCRO事業の競争力強化に注力していきます。

●SMO業界のポジショニングイメージ



●シミックグループ・エリア展開



新規事業であるCMO事業やCSO・その他事業については、今後どのような施策を考えていますか？

CMO事業については、2007年12月に米国で医薬品製造受託事業を行うCMIC-VPS Corporationが新たにシミックグループに加わり、製造受託領域が拡大しました。今後は、治験薬から商業生産までの一貫受託、製薬企業の生産部門機能の一括受託が可能な体制構築を目標に、事業を強化してまいります。

CSO・その他事業においては、MR派遣業務とメディカルコミュニケーション事業（販促資材企画・制作）のシナジー効果を発揮させ、他社との差別化を図ります。また、その他事業におけるヘルスケア分野の事業については、ヘルスケア・ソリューション・プロバイダーとして、製薬企業や医療機関向けのサービスに加え一般個人向けサービスも展開し、社会への貢献度を高めていく事業モデルの確立に努めます。



CMIC-VPS Corporation (米・ニュージャージー州)

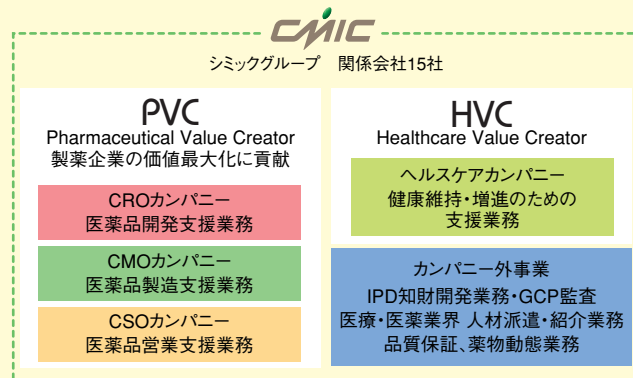
2009年9月期以降はどのような展開を考えていますか？

シミックグループは、グループ事業の中期的な収益性と生産性を高めるべく、2008年10月にグループ組織再編を行い、2009年9月期を新組織体制でスタートしています。グループ横断の事業カンパニー「CROカンパニー」「CMOカンパニー」「CSOカンパニー」「ヘルスケアカンパニー」を設置し、権限を一部委譲するとともに執行責任を明確化し、意思決定と業務執行スピードの向上、効率化を図ってまいります。

2009年9月期の業績については、2008年9月期の受注が好調であったため、引き続き堅調に伸長すると予測しており、売上高は30,193百万円（前期比17.1%増）、営業利益2,631百万円（同15.7%増）、当期純利益1,176百万円（同41.8%増）と、増収増益を見込んでいます。

また、自社開発中の案件であるL-FABP診断薬は、腎疾患の進行を予測する体外診断薬として2006年9月当局に承認

●シミックグループ新組織体制（2008年10月より）



申請を行いました。審査を経て承認が得られれば、知的財産開発案件の第一号としてロイヤリティ収入が期待できます。

シミックグループはこのたび、2011年までの中期数値目標を設定しました。さらに2015年には売上高1,000億円を目指して、成長基盤を拡充し、持続的な企業価値向上を図ってまいります。



最後に、利益還元方針について聞かせてください。

配当については、当社は財務基盤と企業体質の強化を図るとともに、株主の皆さまへの利益配分を図ることが経営の最重要課題と考えています。2008年9月期は、年間配当266円（前期比50円増額）、配当性向は26.5%（前期13.7%）とさせていただきました。2009年9月期の配当計画は、年間334円（前期比68円増額）を予定しています。今後は連結配当性向の目標を従来の20%から30%に変更し、早期の達成を目指してまいります。

用語解説

臨床試験：
薬の効き目や安全性を調べるために、患者さんや健康な人に使ってみて、それが本当に治療に役立つ薬なのかどうかを確かめる試験のこと。

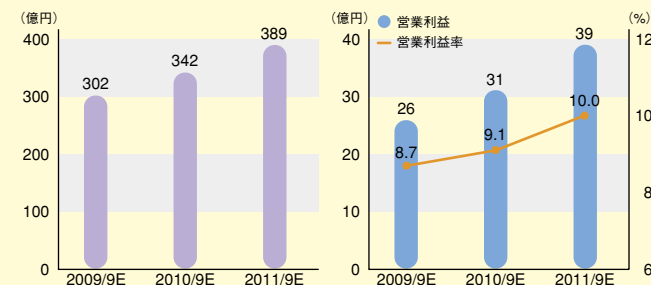
治験：
国（厚生労働省）から、医薬品として製造や輸入などの許可を得るために行う臨床試験のこと。

CRC：
医療機関で、被験者のケアや同意取得補助など治験実施をサポートする専門スタッフ。

SMO：
CRC業務や治験事務局業務など、医療機関の治験に関わる業務を受託・代行。

SMA：
医療機関の治験インフラの整備・運営の支援を行う治験事務局のスタッフ。

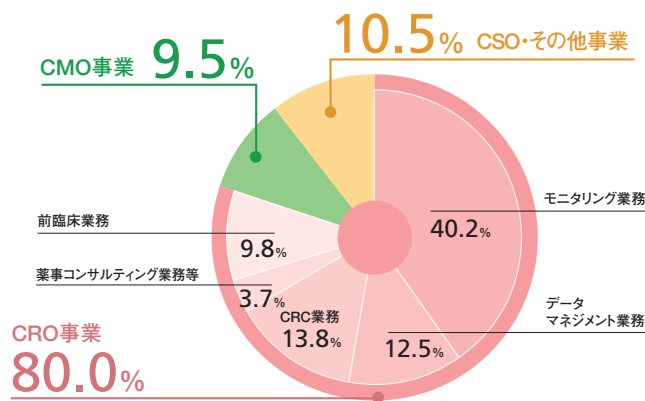
●連結売上高・営業利益目標



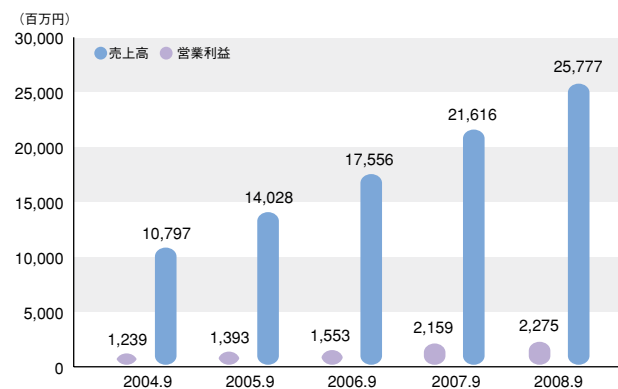
Pharmaceutical Value Creatorとしてのシミックグループ

シミックグループは、製薬企業の付加価値向上に貢献する当社独自の事業モデルであるPVC (Pharmaceutical Value Creator)のもと、CRO事業、CMO事業、CSO事業という3つの事業領域においてサービスを提供しています。また、医薬品から医療・ヘルスケアまで分野を広げ、「患者のための医療」に貢献できるビジネスモデルの確立を目指しています。

● 2008年9月期 売上高構成比



● 連結売上高・営業利益推移



CRO
Contract Research Organization

医薬品開発支援

臨床試験(治験)依頼者である製薬企業などより委託され、主に臨床試験(治験)に関わる専門的な業務を行う事業のことです。臨床試験の期間短縮・コスト削減を図り、「より良い新薬をより早く患者さんのもとに届ける」手助けをしています。

CMO
Contract Manufacturing Organization

医薬品製造支援

製薬企業などから医薬品の製造を受託する事業です。富山、ソウル(韓国)、ニュージャージー(米国)の3カ所に製造工場を所有し、今後拡大が見込まれる医薬品製造受託ビジネスを行っています。

CSO
Contract Sales Organization/Others

医薬品営業支援・その他

製薬企業などに対し、MR派遣、販促資材の企画・制作など、医薬品の営業・マーケティングを支援する事業です。その他、被験者募集業務、ヘルスケア情報サービス事業、人事組織開発の支援も行っています。

CRO
Contract Research Organization
医薬品開発支援

さらなる成長に向け、グローバルCROを目指します

CRO市場は、製薬企業の経営効率化や新薬の研究開発が活発化していることを背景に、今日まで着実に成長しています。

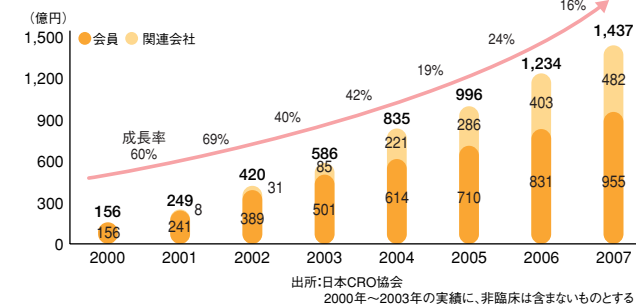
そのなかでCROのパイオニアであるシミックグループのCRO事業についても、現在堅調に推移しています。特に2008年9月期においては、主力である受託型モニタリング業務や前臨床業務が好調であり、業績に大きく貢献しました。その結果、CRO事業の売上高は20,627百万円(前期比21.5%増)となりました。

モニタリング業務については、2008年11月現在シミックグループ全体でモニター約650名と日本最大級の規模を誇り、豊富な実績とノウハウ、充実した教育研修により、製薬企業に対し質の高いサービスを提供しています。

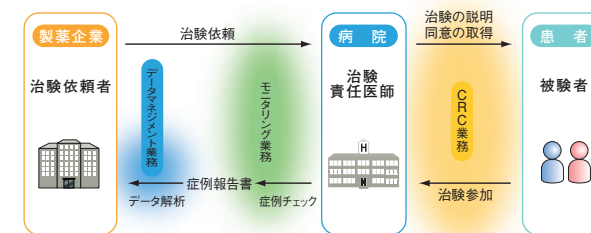
また、前臨床業務においては、連結子会社である株式会社応用医学研究所が当期、大口案件の新規受注獲得したことなどにより、前期比64.7%増と大きく業績を伸ばしており、今後もさらなる成長を見込んでいます。

今後は、グローバルへとより一層積極的に展開し、事業の拡大に向けて邁進していきます。

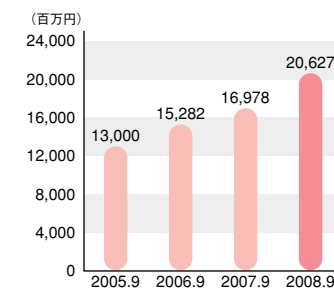
● 日本のCRO市場 (CSOは除く)



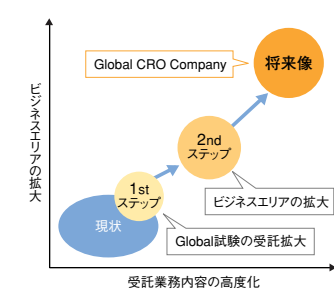
● 臨床試験(治験)の基本構図



● CRO事業売上高



● CRO事業の目指す姿



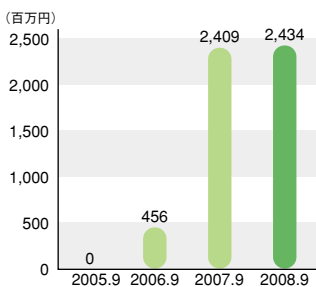


CMO事業については、新規顧客を獲得し、収益性の向上に注力します

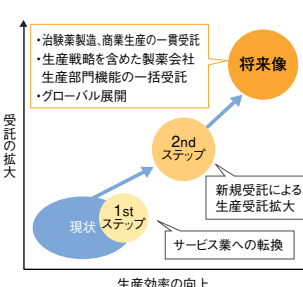
CMO事業は、2005年8月に韓国のCMIC CMO Korea Co., Ltd.の子会社化により事業を開始し、2006年9月に富山のシミック・エスエス・CMO株式会社を子会社化しました。当期は2007年12月新たに米国のCMIC-VPS Corporationを子会社化し、治験薬製造や市販薬の製造受託のできる体制を構築し、事業の拡大を図っています。当期の売上高はCMIC-VPS Corporationの新規計上がありました。日本および韓国において既存受託品目の製造受託が伸び悩み、2,434百万円と前期比で1.0%の増加にとどまりました。

今後は、新規受託による生産量拡大と収益性の向上を図ります。また、CMIC-VPS Corporationにて開始した市販薬の製造受託を着実に進めていきます。

● CMO事業売上高



● CMO事業の目指す姿

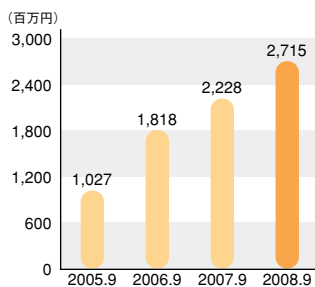


CSO事業では、営業に関する総合的なソリューションを提供し、ヘルスケア分野ではヘルスケア・ソリューション・プロバイダーとして新規事業に挑戦していきます

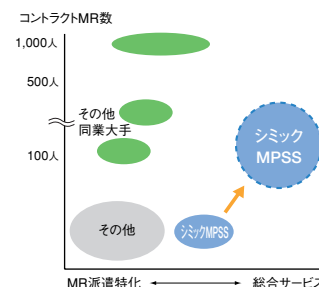
エムディエス株式会社におけるメディカルコミュニケーション事業（販促資材企画・制作）が好調に推移し、MR派遣業務の売上の伸び悩みをカバーしました。また、その他事業の株式会社ヘルスクリックにおける被験者募集業務などの伸長で、CSO・その他事業の売上高推移は2,715百万円と前期比で21.8%の増加となりました。

今後も、メディカルコミュニケーション事業およびヘルスケア情報サービス事業において、引き続き堅調な推移を見込んでいます。一方、MR派遣業務については、他社との差別化を図り、新規案件受託による事業規模の拡大に注力します。さらに広く健康を支える新規ビジネスへの参入にも挑戦していきます。

● CSO・その他事業売上高



● コントラクトMRのポジショニングイメージ



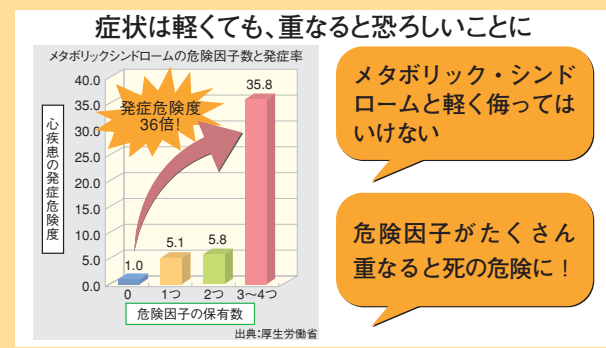
36倍の恐怖って? メタボの本当の怖さ、知っていますか?



最近、医学界でも注目されているメタボリック・シンドローム。なぜ良くないのか、真相をご存知でしょうか。

メタボはウエスト周りのほか、血圧、血糖値、血中脂質のうち2つ以上が正常値を超えると診断されます。1つ1つはそんなに重症でなくても、これらが重なると心臓病を発症するリスクはなんと36倍に！—それがメタボの本当の怖さなのです。

あなたの周りで「メタボってビール腹の人のことじゃないの?」と言っている人、いませんか? 健康を維持するためには、正しい知識を身につけることが必要です。



深夜0時、ひどい熱! そんなとき、あなたならどうする?

規制緩和の流れに乗り、これまでは薬局・薬店でしか買えなかった医薬品が、薬事法改正によって2009年4月からコンビニなどでも買えるようになりました。薬剤師の代わりに新たな認定資格である「登録販売者」を置き、商品に「医薬品区分※」を明記することで、購入者である私たちの安全が確保されることとなります。

身近にあるスーパーやコンビニで医薬品が買えるとなると、いざというとき便利かもしれません。

区分※	薬事法改正前の販売形態	改正後の販売形態	主な該当品目
第1類医薬品		従来通り	一部の胃腸薬・風邪薬、禁煙補助薬など
第2類医薬品	薬剤師がいる薬局・薬店での販売のみ	登録販売者があり、一定基準をクリアした店舗であれば販売可能	解熱消炎鎮痛剤、風邪薬、漢方薬など
第3類医薬品		登録販売者があり、一定基準をクリアした店舗であれば販売可能	ビタミン剤、整腸薬、健胃薬など

<出典> <http://www.mhlw.go.jp/bunya/iyakuhin/ippanyou/index.html>

ヘルス healthクリック

「healthクリック」は、健康一般情報および疾病に関する情報を提供する、日本で最大級の健康ポータルサイトです（月間1,200万ページビュー、ユニークユーザー数140万人）。また、2008年12月より、携帯サイトがオープンしました。ぜひご利用ください。

PC版 <http://www.health.ne.jp/>
携帯版 <http://health.ne.jp>

携帯版「健康◆healthクリック」
PC版「healthクリック」

当期のポイント

売上高 19.2%増

- 主力のCRO事業が好調
- SSIの新規グループ化

営業利益 5.3%増

- 採用活動強化により人員確保を推進したこと、子会社における売上高が減少したことにより、原価率が上昇

当期純利益 30.7%減

- 前期に発生した子会社吸収合併による税金費用減少の影響がなくなったことによるもの

- ▶主にSSI子会社化による増加
- ▶主に応用医学研究所の設備増築
- ▶CMIC-VPS Corporation買収などによる増加

2009年9月期 見通し

	2008.9 (百万円)	増減率	2009.9 (百万円)
売上高	25,777	17.1% UP	30,193
営業利益	2,275	15.7% UP	2,631
当期純利益	829	41.8% UP	1,176

●連結貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

科 目	当 期 2008年9月30日現在	前 期 2007年9月30日現在
資産の部		
流動資産	14,352,818	10,946,430
固定資産		
有形固定資産	4,513,693	4,022,210
無形固定資産	1,195,989	742,693
投資その他の資産	2,010,656	1,609,591
▶ 固定資産	7,720,340	6,374,494
▶ 資産合計	22,073,159	17,320,925
負債の部		
流動負債	5,793,878	3,795,572
固定負債	2,228,167	2,558,729
▶ 負債合計	8,022,046	6,354,301
純資産の部		
株主資本	13,266,520	10,108,613
評価・換算差額等	△ 131,493	70,197
少数株主持分	916,085	787,812
▶ 純資産合計	14,051,112	10,966,623
負債・純資産合計	22,073,159	17,320,925

●連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)

科 目	当 期 2007年10月1日から 2008年9月30日まで	前 期 2006年10月1日から 2007年9月30日まで
売上高	25,777,297	21,616,777
売上原価	18,612,767	15,261,236
売上総利益	7,164,530	6,355,541
販売費及び一般管理費	4,889,449	4,195,962
営業利益	2,275,080	2,159,579
営業外収益	159,988	140,731
営業外費用	247,475	147,248
経常利益	2,187,594	2,153,062
特別利益	889	9,531
特別損失	83,083	111,730
税金等調整前 当期純利益	2,105,400	2,050,862
法人税、住民税 及び事業税	1,367,276	868,613
法人税等調整額	△ 201,494	△ 84,266
少数株主利益	109,918	68,433
当期純利益	829,699	1,198,082

●連結株主資本等変動計算書(要旨)

(単位:千円)

当 期 (2007年10月1日から 2008年9月30日まで)	株主資本				評価・換算差額等			少数 株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2007年9月30日 残高	3,087,750	3,332,990	3,687,873	—	10,108,613	70,197	70,197	787,812	10,966,623
連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当	—	—	△ 162,139	—	△ 162,139	—	—	—	△ 162,139
剰余金の配当(中間配当)	—	—	△ 100,893	—	△ 100,893	—	—	—	△ 100,893
当期純利益	—	—	829,699	—	829,699	—	—	—	829,699
自己株式の取得	—	—	—	△ 36,650	△ 36,650	—	—	—	△ 36,650
自己株式の処分	—	—	0	—	0	—	—	—	0
株式交換による変動額	—	2,627,891	—	—	2,627,891	—	—	—	2,627,891
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△ 201,691	△ 201,691	128,273	△ 73,418
連結会計年度中の変動額合計	—	2,627,891	566,666	△ 36,650	3,157,907	△ 201,691	△ 201,691	128,273	3,084,488
2008年9月30日 残高	3,087,750	5,960,881	4,254,539	△ 36,650	13,266,520	△ 131,493	△ 131,493	916,085	14,051,112

● 貸借対照表 (要旨)

(単位: 千円)

科 目	当 期	前 期
	2008年9月30日現在	2007年9月30日現在
資産の部		
流動資産	6,360,837	6,867,671
固定資産	10,074,230	6,046,839
資産合計	16,435,067	12,914,511
負債の部		
流動負債	2,792,277	2,134,403
固定負債	1,579,414	1,861,096
負債合計	4,371,692	3,995,500
純資産の部		
株主資本	12,063,375	8,919,011
純資産合計	12,063,375	8,919,011
負債・純資産合計	16,435,067	12,914,511

● 損益計算書 (要旨)

(単位: 千円)

科 目	当 期	前 期
	2007年10月1日から 2008年9月30日まで	2006年10月1日から 2007年9月30日まで
売上高	13,048,905	11,418,932
売上原価	9,156,911	7,849,327
売上総利益	3,891,993	3,569,605
販売費及び一般管理費	2,640,787	2,405,127
営業利益	1,251,206	1,164,477
営業外収益	265,099	134,184
営業外費用	156,142	133,711
経常利益	1,360,163	1,164,951
特別利益	134,968	—
特別損失	217,520	300,035
税引前当期純利益	1,277,611	864,915
法人税、住民税及び事業税	709,027	389,323
法人税等調整額	△ 167,363	△ 58,877
当期純利益	735,946	534,469

● 株主資本等変動計算書 (要旨)

(単位: 千円)

当 期 (2007年10月1日から 2008年9月30日まで)	株主資本					純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	
2007年9月30日 残高	3,087,750	3,332,990	2,498,271	—	8,919,011	8,919,011
事業年度中の変動額						
剰余金の配当	—	—	△ 81,928	—	△ 81,928	△ 81,928
剰余金の配当(中間配当)	—	—	△ 100,893	—	△ 100,893	△ 100,893
当期純利益	—	—	735,946	—	735,946	735,946
自己株式の取得	—	—	—	△ 36,650	△ 36,650	△ 36,650
自己株式の処分	—	0	—	—	0	0
株式交換による変動額	—	2,627,891	—	—	2,627,891	2,627,891
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	—
事業年度中の変動額合計	—	2,627,891	553,123	△ 36,650	3,144,364	3,144,364
2008年9月30日 残高	3,087,750	5,960,881	3,051,394	△ 36,650	12,063,375	12,063,375

会社概要 (2008年9月30日現在)

商 号 シミック株式会社
 設 立 1985年
 資 本 3,087,750千円
 本 社 所 在 地 〒141-0031 東京都品川区西五反田7-10-4 金剛ビル
 従 業 員 数 2,506名(連結)
 事 業 所 北海道支社 東北支社 北陸支社
 名古屋支社 大阪支社 中国支社
 九州支社

グ ル ー プ 会 社 (株)シミックBS サイトサポート・インスティテュート(株)
 (連結子会社) (株)シミックMPSS エムディエス(株)
 (株)ヘルスクリック シミック・エスエス・CMO(株)
 (株)応用医学研究所 CMIC-VPS Corporation
 CMIC CMO Korea Co., Ltd. CMIC Korea Co., Ltd.
 CMIC (Beijing) Co., Ltd. CMIC Asia-Pacific, Pte. Ltd.
 CMIC BRASIL PESQUISAS CLÍNICAS LTDA.
 持分法適用会社 富士フイルム・シミック ヘルスケア(株)

株式の状況 (2008年9月30日現在)

- 発行可能株式総数2,300,000株
- 発行済株式総数894,957株
- 株主数.....5,879名
- 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社アルテミス	318,410	35.5
中 村 和 男	95,286	10.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	90,990	10.1
株式会社ケースジャパン	35,972	4.0
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	34,980	3.9
資産管理サービス信託銀行株式会社	15,290	1.7
みずほキャピタル株式会社	14,600	1.6
シミック従業員持株会	14,207	1.5
野村信託銀行株式会社	13,917	1.5
ノーザン トラスト カンパニー エイブイエフシー リ ノーザン トラスト ガンジー アイリッシュ クライアント	11,320	1.2

(注) 1. 発行済株式総数に対する所有株式数の割合は、小数点以下2位を切り捨てております。

2. 上記株主の所有株式数のうち、信託業務にかかる株式数は次のとおりです。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	90,990株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	34,980株
資産管理サービス信託銀行株式会社	15,290株
野村信託銀行株式会社	13,917株

役 員 (2008年12月16日現在)

代表取締役会長兼社長	中 村 和 男
代表取締役副社長	中 村 村 宣 雄
取締役副社長	中 佐 野 圭
取締役	中 佐 野 極 子
取締役	望 月 涉
取締役	菱 沼 肇
取締役	小 沼 寛
取締役	若 井 正 久
取締役	松 原 久 雄
取締役(社外)	原 石 護
取締役(社外)	堀 井 昭 宏
取締役(社外)	酒 井 俊 二
取締役(社外)	種 房 俊 二

●所有者別の構成比率(株式数比率)

